

平成26年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズにも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学校生活に係る重点課題として、今年度新しい取り組みを初めた。服装、あいさつ、身だしなみ、マナー等の指導は当然のこととして、今年度は、生徒が自分の学校を好きになる、生徒が自分の学校に誇りを持てる、そのような指導を進めようとしている。学校評議員からは、大変興味深い取り組みであり、愛校心や学校への帰属意識などが、生徒指導の面でも良い方向に結びつくのではないかとの評価を頂くと共に、今後の取り組みにも期待したいとの言葉を頂いた。

資格取得への取り組みについては、土木工学科において国家資格取得対策の直前合宿を行い、合格率を上げた。学校評議員からも高評価を頂いたが、同時に、資格取得そのものは目標とするものではないとの指摘もあった。

定時制の重点課題でも、多くの困難を抱える中での資格取得への導きや、皆勤精勤への取り組みについて、それぞれ効果を上げている。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明した。特に第2回目では、校内の各科選抜生徒による課題研究全体発表会にも出席頂き、生徒の様子を直接見て頂くことができた。高い評価と共に様々な提言もあった。今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつける様に努める。

学校アクションプラン（全日制）

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	教科指導の充実
重点課題	工業高校生としての学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また専門分野外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。 ○ 平成25年度は延べ1791人が各種検定や資格試験に合格しており、前年度より12.4%増加した。一人平均の資格取得数は1.88となる。
達成目標	<p style="text-align: center;">一人当たりの検定合格または資格取得数 一人平均 1.9 以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内指導体制の改善・充実と外部の専門技術者の招聘や活用を図る。 ○ 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。 ○ ジュニアマイスター制度および単位認定制度の周知徹底を図る。 ○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、合格発表のある検定試験が多数あるため、最終的な集計は3月となる。 ○ 機械工学科と建築工学科において、技能検定（機械検査・建築大工）などの新しい国家資格に取り組んだ。 ○ 電気工学科において、電気工事士・電験三種などの高度な資格に継続して取り組んでいる。 ○ 土木工学科2年生において、測量士補の合格率がはじめて50%を越えた。また、3年生においては、新たに25名が合格し、クラスの取得率が75%を越えた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格の種類によっては補習を朝・昼・放課後に行い、合宿勉強会を行った。さらに、電気工学科においては、他校との合同勉強会を行っている。 ○ 資格の取得に応じて与えられるジュニアマイスター制度の周知を図るため、自作のポスターを掲示した。 ○ 朝学習と資格補習の両立を図った。 ○ 教科指導の充実という観点から学習指導にも力を入れ、1年生では「学び直し」を取り入れ、定期考査前には学年ごとの放課後学習会を行っている。
評 価	<p style="text-align: center;">C 最終的な合格者数集計は3月になるので現状維持とした。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土木工学科の資格取得のための合宿、電気工学科の他校との合同勉強会など、取り組みの成果が現れている。 ○ 資格取得そのものが目的とならないように、指導してほしい。
今後に向けての課題	<p>最終的な集計は、目標数値を上回ることが十分予想される。本校の生徒は、資格取得に熱心であり、学習意欲の向上にもつながっている。また、電気工事士をはじめ技能検定など、技能と知識を身につける資格にも積極的に挑戦して良い結果を残している。さらに、電験三種・測量士補など社会で即戦力となる高度な資格においても計画的に指導が行われており、合格率も向上し、取得率も向上している。さらに、3級を取得したら2級へと、上級の資格を目指す生徒もいる。</p> <p>以上のことから、今後に向けて教科指導の充実という点で、新たな目標を検討したい。</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -2-

重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	学校を愛し、主体的に活動に取り組む生徒の育成	
現 状	社会的に規範意識が希薄化していることが問題視されているが、その大きな要因として母国愛、家族愛の欠如が上げられている。本校生徒についても、本校を愛する気持ち、心が不足しているように感じられる。日々の生活の中で、生徒一人ひとりが主体的に個人の課題解決に向けて「気づき」、「考え」、「実行」できる力を身に付けさせること。さらには、愛校心を高揚させる活動を特活部と連携し、計画的に実践していくことが求められる。	
達成目標	本校を愛していると回答する生徒の割合（※アンケートにより調査） 全校生徒の 80% 以上	
方 策	<p>本校を誇ることができる学校にするためのプロジェクトを立ち上げる。（誇れるから愛することができる。）取り組みの具体例は以下の通り。特活部と連携しながら、生徒会執行部で検討の上、選択して実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※僕らの、私たちの生徒手帳づくり ※いいね、富工ボーイ、ガール（キャラクターの制作） ※富工イメージソング、応援歌の制作 ※富工学園ドラマ（アニメ制作） ※定例富工川柳の会を発足 ※定例地域討論会（もっと五福地区を素敵にするには） 	
達 成 度	1学年64, 3% 2学年67, 24% 3学年76, 02% 学年が進むにつれ達成度が向上していることがうかがえる。	
具体的な 取組状況	1学期にキャラクターの制作を行い、2学期に開催された富工展より活用した。キャラクターの名前の募集を行い校訓「自他敬愛」の二文字を採用し「敬」、「愛」に決定した。生徒への呼びかけの際にキャラクターを現在活用している。富工川柳の会を発足し、これまでに6回の作品応募を実施している。初回の題目は「携帯電話・スマートフォン」に始まり、年末には「初夢」、現在「新幹線」の題目を公表し作品募集を行っている。優秀作品の掲示と表彰を生徒指導部で行っている。	
評 価	B	全校生徒アンケート結果69. 41% 初年度としておおむね達成
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛校心や学校への帰属意識などは、生徒指導上にもよい影響が出ると思います。 ○ 新しい試みなので、これからの継続した取り組みに期待したい。 	
今後に向けて の課題	現在、実施している活動を継続的に進めていくことが重用であると考えている。作品応募数は、題目によっては200点に迫るものもあり、生徒の関心の高さが感じられる。気軽に参加ができる場をさらに設けていきたい。また、イメージソングづくりに挑戦してくれている生徒がおり、作品の出来上がりが楽しみである。今後は、自分たちの学校であることの自覚がさらに高まり、より質の高い活動が、生徒側から提案されるような方向に導いていく手だてを模索していくことが必要である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -3-

重点項目	進路指導の充実	
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定	
現 状	<p>昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって二回目の卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。</p>	
達成目標	<p>3学年における進路希望の達成度 (就職試験1次内定率、進学先第1希望合格率) 達成度 85% 以上</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加し、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など各教科、各学科の協力を得てきめ細かい指導をする。 	
達 成 度	<p>就職試験には235名（公務員含む）が応募し、一次内定率は91.9%であった。 入学試験には83名（1名結果待ち）が応募し、第一希望合格率は93.9%であった。</p>	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職、学年、学科、進路指導部で分担し、約140社の企業を訪問した。 ○ 求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し、生徒にも配布した。 ○ 求人票の写しを2部ずつファイルに整理し、教室の近くで閲覧できるようにした。 ○ 就職希望者全員が応募前職場見学に参加し、応募先を決定した。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 学校説明会、オープンキャンパスなどに積極的に参加させ、進学先決定の一助とした。 ○ 受験に向けて、外部模試、学力向上セミナー、校内夏季補習などを実施し、学力の向上・充実の機会とした。 ○ 面接、小論文、教科等の個別指導を実施し、各生徒の希望に応じた受験対策がとれるよう、各教科、各学科との連携を推進した。 ○ 製造業を中心とするインターンシップ（7月上旬に3日間）を実施し、2学年生徒全員が参加した。 	
評 価	A	昨年度に続き、目標を大きくクリアすることができた。
学校評議員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 求人にも、富山工業高への企業の期待の大きさが表れている。 ○ インターンシップで学ぶ内容を、企業と学校とで共同開発して取り組ませるとより、効果のあるインターンシップになるのではないか。 	
今後に向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早い段階からの進路目標設定と生徒一人一人に対応したサポート ○ コミュニケーション能力や職業観・勤労観を身につけるための指導 ○ 大学生等の就職・採用活動開始時期の変更に伴う対応 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化	
現 状	<p>体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識が高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。</p>	
達成目標	<p>体育大会、富工展において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。</p> <p>（※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。）</p> <p>運営・企画に積極的な参加意識度 体育大会 70%以上 富工展 70%以上</p>	
方 策	<p>○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。</p> <p>○ 富工展について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、生徒が意欲的に参加し満足できることを目指す。</p>	
達 成 度	<p>体育大会企画・運営参加意識度 53%（どちらともいえない 32%）</p> <p>富工展企画・運営 97%</p>	
具体的な取組状況	<p>○ 体育大会運営委員会を開催し運営（競技、応援等）について事前に生徒、職員で討議し計画をたてた。競技についてのみの団集会を企画した。</p> <p>○ 他校の企画例の資料を各クラスに配布した。文化的、工学的な発表をうながした。</p>	
評 価	B	<p>○ 体育大会は前回より数値はあがった。（44%）</p> <p>○ 満足度は75%</p> <p>○ 富工展は高い数値</p>
学校評議員の意見	<p>○ 主体性を育む試みが、リーダーを育てることにつながると思います。</p> <p>○ 企業は富山工業の卒業生にリーダーとなって育ってくれることを期待している。</p> <p>○ 富工展の企画などは、全校生徒から募集して、競わせるようにしても良かったのではないかな。</p> <p>○ 小さな事でもいいので、何か役割を与えてやってほしい。</p>	
今後に向けての課題	<p>○ 運営委員会にむけての準備やその後の取り組み、情報の共有を充実させる。</p> <p>○ 団集会の準備や充実をはかる。</p> <p>○ 早期の取り組み（1学期）</p> <p>○ 予算案の改善（企画、要望をへての案づくり）</p>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

学校アクションプラン（定時制）

平成26年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	学校設定科目「生活技能」による資格取得の推進
現 状	高校入学以前の学習面のつまずきや集団生活への不適應に起因すると思われる基礎学力の不足から、学習意欲に乏しく授業への参加も消極的である。特に、高校生として求められる読解力や計算能力等の基礎学力、および一般的な教養において、個人差はあるが身につけていない生徒が多い。そこで、学校設定科目「生活技能」を導入し、生徒個々の学力向上を目指している。
達成目標	全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に合格する生徒の割合 65% 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連する各教科間で連携を図り、学習習慣の確立を目指すとともに、基礎学力の向上を図る。 ○ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定し、自作教材により学習させる。 ○ 「生活技能」以外の授業においては、個々の受検希望者に対する補習等の学習環境の改善と充実を図る。 ○ 社会生活に必要なマナーや教養を身に付けさせるための機会を設定する。
達 成 度	☆学年別資格検定合格者割合 （1年生の資格試験合格者の割合）・・・100%（5名/5名） （2年生の資格試験合格者の割合）・・・75%（3名/4名） （3年生の資格試験合格者の割合）・・・75%（3名/4名） （4年生の資格試験合格者の割合）・・・50%（1名/2名） 定時制全体の割合・・・75%（12名/15名） ◎全国工業高校長協会主催の検定合格者・・・90%（10名/11名） ◎国家資格合格者・・・50%（2名/4名） （平成26年度12月末現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活実態調査により、生徒の学校で学ぶ目的意識を知るとともに、生徒個々の学力を診断して、普段の授業に反映させるために、学校設定科目「生活」において国語・数学・英語の基礎学力の向上を図っている。 ○ 定時制全体で資格取得に挑戦する雰囲気構築し、対象生徒に対しては授業前や長期休業中に時間を設けて、短期集中で補習を行っている。
評 価	B 資格検定に挑戦する生徒数が少なく、合格率も昨年度より下がった。
学校評議員の意見	○ 指導が困難な中で、よく指導して頂いている。
今後に向けての課題	資格取得に挑戦したいと思う生徒を増やすために、「機械」や「電気」の専門科目の基本知識や基本技術の定着を目指す。授業の工夫や補習体制の改善および教材の充実など、生徒の意欲を喚起し、自ら目標を設定して積極的に資格取得に取り組むことのできる雰囲気作りなど、生徒を取り巻く環境の整備を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成26年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活
重点課題	基本的生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、社会生活状況において様々な問題点を抱える生徒が多く、学校の時間帯に合わせた生活設計が困難であったり、適応性の問題から規則やマナーの遵守に欠ける傾向にある。過去3年間、生徒全体の出席率は平均95%前後で推移しており、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、本校入学前に比べ、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られる。働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切にし、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。</p>
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 36% 以上</p> <p>*皆勤 = 一カ年の欠席が0日 *精勤 = 一カ年の欠席が3日以内 (欠課時数4で欠席1日とする)</p> <p>(平成23年度は21%、24年度は20%、25年度は32%)</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させるとともに、就業ガイダンスの充実を図る。 ○ 将来を見据えた進路指導により、日常生活の見直しを行う。 ○ 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ○ 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みに日々の生活支援を行う。 ○ 保護者と緊密な連絡体制をとりながら、生徒の心身等の変調について、早期発見、早期対策を講じる。
達 成 度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合：26% (実質登校者数23名中6名12月24日現在)
具体的な 取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の健康や生活状態を確認 (登校時、STなどでの声かけ) ② 始業前と授業間の巡回指導 (教員2名での校内を見回り、出席状況を確認) ③ 保護者との連携 (生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応) ④ 教育相談 (非常勤カウンセラーとの面談により悩みなどの早期発見) ⑤ 授業出欠状況の確認と生活指導 (授業担当者による遅刻・欠席時数の集計)

学年・学期ごとの欠席状況				
学年	1学期	2学期	合計	一人当たり 年間欠席数
	欠席数	欠席数	欠席数	
1年(5名)	6	1	7	1.4
2年(8名)	8	16	24	3.0
3年(5名)	62	88	150	30.0
4年(5名)	20	9	29	5.8
計	96	114	210	全校平均欠席日数
男23				9.13 日

評価	D	<p>現在においては目標とする割合36%を大幅に下回ってしまった。欠席日数のみではクリアしていたが(60%)、遅刻や早退などの欠課時数を欠席日数に換算し、合計すると26%にとどまった。遅刻や早退への対応策が必要である。このほか、家庭事情等による退学者が1名いたこと、休学者や長期欠席する生徒がまだ数名いることなど、指導の課題は残されている。しかし、進級や卒業が出来るよう、欠課時数を意識し、意欲的に登校する(授業に参加する)生徒も出てきているので、粘り強く指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	<p>○ まずは登校させる指導、そして教室に行く指導と、きめ細かい指導が行われている</p> <p>○ 大変だと思うが、しっかり指導してやってほしい</p>	
今後に向けての課題	<p>① 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。</p> <p>② 充実感や達成感を与えるよう学習指導を工夫する。</p> <p>③ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。</p> <p>④ カウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。</p> <p>⑤ 家庭環境に留意し、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)